

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

教員に求められる実践的指導力を修得するために、教育学部では特徴的な取組を行っています。その一つがコース制の採用です。小学校の教員を目指す学生は初等教育コースに、幼稚園の教員を目指す学生は幼児教育コースに属し、それぞれの専門的なカリキュラムを学びます。

正課で特徴的な授業科目はフィールドスタディーで、ⅠからⅢまであります。1年次の終わりにフィールドスタディーⅠ（必修）で、小学校と幼稚園に分かれて現場体験を行います。2年次のフィールドスタディーⅡ（選択）では、特別支援学校や特別支援学級で障がいのある子どもに対する支援を学びます。3年次のフィールドスタディーⅢ（選択）ではさらに学びを深め、教育実習の準備を行います。4年次には教育実習やインターンシップを行う予定です。また小学校では今後英語教育の充実が求められることから、オーストラリアでホームステイしながら現地の小学校で日本語授業のアシスタント・ティーチャーとして活動する短期海外研修（選択、約1週間）も実施します。

実践的指導力を身につけるためには正課の授業だけでは十分ではありません。そのために教育学部では、近隣の市町の教育委員会や幼稚園と連携協定を結び、小学校や幼稚園でボランティアを行ったり、現職教員の研修に参加するなど、正課外の体験学習プログラムを用意しています。

教育学部には附属施設の教員・保育士養成支援センターがあり、そのスタッフが現場の学校園との連絡役となって学生の実習をサポートします。初等教育コース担当のスタッフは教員採用試験の対策講座も実施していますし、幼児教育コース担当のスタッフは幼稚園教諭に必要な様々の実技指導も行っています。これらの取組についても詳細は教育学部のホームページをご覧ください。